

農業高校におけるGAPの導入について

福永 善吾（長浜農業高等学校）

1. はじめに

農業高校では学習教材に農場が積極的に利用され生きた教科書として活用されています。今後もこのような流れは変わらぬと考えますが、「コンクリートから人へと！」という政治の大きな流れがあり、経済の閉塞感や、社会の大きな変化は、従来型の教科書中心の農場運営から社会のあるべき姿の中で、その変化を捉えた未来型農場運営へと、学習価値の見直しの時期にきていると考えます。そこで平成13年度から「環境」というテーマを取り入れた農場づくりが「滋賀県環境こだわり農産物」認証制度にのっとり長浜農業高校の水田で始まり今日に至っています。現在では、1学年の農業基礎・果樹園のハウスブドウで実施され少しずつ教員同士の勉強会により、広がりを見せ、面積は農場全体の35%を対象とし一定程度の成果を上げています。

しかし、類型学習間の学習目標の違いが「環境」というテーマで、長浜農業高校全体の教育農場として集約されるには遠いものがあります。

そこで、類型学習間の共通項目である生産物（学習成果）の方からアプローチを考え、未来型教育農場の実現を図るべく、昨今農業を取り巻く状況の中でクローズアップされているのが安全安心な農産物の生産流通過程を認証する適正農業規範GAP（Good Agricultural Practice）である。

今回、環境教育農場の確立に向けて、その導入の是非について考えてみました。

2. 実践課程の中で

GAPが農場・地域社会の安全・安心・景観とびわ湖をも含む環境保全を強く意識し、行動規範として導入を計画、実践の段階へと進む中で、学習農場は「環境こだわり農産物の認証」の技術要件を基礎に、さらにきめ細かな技術課題を克服しなければなりません。その取り組む過程の中に環境と生産技術・経営の学習が含まれており、まさにGAP理念のもと、こうした行動は「最低限の農場運営のマナー」ととらえてこそ環境学習型のフィールドが創造されるものと考えます。

そのため、農業教育に携わるものの理念の共有と実践の積み上げが要求されているものと思います。